



滿志保身拾遺
風

特別
イ 4
3163
35(3)



浦波貝拾遺意訳

初意



ゆく水波そのもれよはまのなを、意のけしめくまうれきりけぬ
何よりさくおのせきれまのみのぬへりうたのみあつる
こらなみつるまうあうきくや〜人をもつるあつる也

思ふ意

あつるせむちのりくま乃ひまきよ思ひゆへん生まきん
あつるまぬくても意へせまわしお思ひはしのおあつる也

思ふ意

つよまのこのえまねか〜もへまうきしといひあり
共思ふ意

人言乃の〜もあうりたりせよ志のあれ山あつる〜し〜

と一月も後のまねとてしるすもあはれ座の花もさかすま
不意

かぶら座のちろやまのあやめはあはれ座のあやめあはれ座
え増意

きんぎょみしけりさぬいやみも人はあはれ座
は増意

ひまわり座の増意はあはれ座のあはれ座のあはれ座
又つて

あはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座
人つて

志めゆひし人の増意のあはれ座のあはれ座のあはれ座
ねもつて

こころのあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座
不意

うき座のあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座
と社とあはれ座

くさ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座
祈不意

七つあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座
不意

下ひのあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座
あはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座のあはれ座

のちやハ名カハキマシムンアツク様ニシテ是ハ心ヤルヲ
其ノ心ヲホトシテ入ルヤノ中人ニ志シテ入ルヤノ
信ヲホトスル所ノ事ニシテヤヌハねニシテアツク様ニシテ

聞意

ありわれおの人の部ヲキマハリ好ムコトモシムコトモ
ねハのみキマハリた名ニシテ何ニシテアツク様ニシテ

初意

ニクカラヤルコトハ出ル事ニシテ人ニシテモシムコトモ
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様

憑哲意

地ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテ

来不意

アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様

變経意

色ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテ

別意

アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様

憎別意

アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様
アツク様ニシテアツク様ニシテアツク様ニシテアツク様

春歌忍恋

春朝乃の寸むらりる頼子るるんを思入るんし思入は

思

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

片思

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

後船恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

愛恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

恨恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

遠恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

近恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

毎夕恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

涼衣巾恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

念強恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

掃恋

あはれなる思入るる思入るる思入るる思入るる思入るる

Handwritten text in Arabic script, top line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, ninth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, tenth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, eleventh line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, twelfth line on the left page.

Handwritten text in Arabic script, top line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, ninth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, tenth line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, eleventh line on the right page.

Handwritten text in Arabic script, twelfth line on the right page.

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

春のやがたもたぬ花のよきよきとて思ひよきとて神のやがた

奇言恋

寄母書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

寄懐書

古より書いぬ書にうらむ書に新に書ははるかに書か

寄歌書

もつてはるかに書いぬ書に新に書ははるかに書か

寄書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

古より書いぬ書にうらむ書に新に書ははるかに書か

もつてはるかに書いぬ書に新に書ははるかに書か

寄書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

寄玉書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

寄書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

寄書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

寄書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

寄書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

寄書

書は尺一に書きよめりてはこれ世に送りて書くはよめりて

雨晴月夜遠望

曉

朝霧の如くは何程と曉乃かひは初をぬく時とたつて
おのれもかたがたは曉の初をぬく此の程にけり
未だぬくを花のうへに明ゆはとあつてくはぬるに
のる家

曉

朝霧の如くは何程と曉乃かひは初をぬく時とたつて

曉

朝霧の如くは何程と曉乃かひは初をぬく時とたつて

曉

朝霧の如くは何程と曉乃かひは初をぬく時とたつて

曉

あふ板のゆわゆるきよも 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ
久るれ とも 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

塩屋煙

り春はこれ 燈のまのつらぬ

遠村煙

もし 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

夜雨

夕き 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

雪中夜

斧乃えハ 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

深山雪

ゆわゆる 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

瀧水

雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

山中瀧

つひ 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

瀧水如糸

うさ 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

山

大月 雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

野

雪のさしやまの 燈のまのつらぬ

海邊の牧

あつらふ草花をすまはるの草を常とすぬよめりけり

三津濱

大いお舟はる濱まつまるとも心はけりしるやゆめん

吉田池

またも人夜を乃夜おきよめ田の池の目もさやけり

多め

ゆららんとそのころに作の舟もまき人の心もあはれけり

天保山

うき船は八年もつらぬ山さねと名を荒しけり

後舟

何れもかくとあはれは守人かたしとておのりあはれ

浦舟

おきだうに舟つらぬし波乃よおと入るくはるはる

海路

こころこころやうことなつむしは海をぬりぬれおけり

おきだ人の心のあはれは海をぬりぬれおけり

海邊の舟

こころの舟もつらぬれ船をぬりぬれおけり

海邊の舟

あつらふ草花をすまはるの草を常とすぬよめりけり

大いお舟はる濱まつまるとも心はけりしるやゆめん

またも人夜を乃夜おきよめ田の池の目もさやけり

海邊の舟

奇多河

獨多しくたをれよよはの敷人へのあまのくれを

河袋

紀乃川又さしたに代ハをく系ノ一れ 粟の故のむくたち

奇水籠

下けさつをよれあめとほま心そ世又似きりけ強

行路市

折るのにぬきて捨るまうくつは今日ハ矢引の市まはあ

一頁

ゆくにあはるにあり守中集れ糸細目よあおさおせま

道坂の冥のあさこえ水の山にみあやみしゆく也

冥路電

馬りのかきと清名つ冥なはつ切一おん入るん

冥路電

ゆふつけぬゆの附きれあま也冥もあめまあふ板のや

冥屋烟

筑屋流りりれや文やの夕煙やうぶりを波のうら

あや

田にの程畑とくくあはうもまをに集るん

古寺

丹波のむりはつ遠るれとさの寺もあまのやん

古寺塔

何れも遊ゆる遊波の古に昔乃ののそまの

人よれまをへと井さぬハ久くつぬも

山家杉

山家の杉は元来杉の類に非ざるを以て
山家入稱

杉類人もあまの杉は梅花子を以てあまの杉と
あまの杉とあまの杉と云ふはあまの杉の類に非ざる

山家

山家の杉は元来杉の類に非ざるを以て
山家入稱

田家

田家の杉は元来杉の類に非ざるを以て
田家入稱

田家

田家の杉は元来杉の類に非ざるを以て
田家入稱

田家

田家の杉は元来杉の類に非ざるを以て
田家入稱

田家の杉は元来杉の類に非ざるを以て
田家入稱

橋

橋の杉は元来杉の類に非ざるを以て
橋入稱

庭

庭の杉は元来杉の類に非ざるを以て
庭入稱

松の好むは昔乃玉より好むまゝに人のぬれりきり

一丸れ意のよきは高きをきつて高きをうけりる也

松年久

かありあまのせき人の顔に水は指をよるもはらけり

松遠家

ついで小すつはつの中はれはかきも代を継ぐり

松影映池

いふもたむも蔭をそとつは法のまられはそとつ

嶺松

あまのいみぬれから厚ぬりて神も二葉のきりや

洞松

松をえ谷をけりて見えしせは小松乃成にむやう

嶺松

ついで沖の小島にけり松行を種を生るぬけん

海辺松

沖つをぬれしほきりて志れれ磯の松は片をぬき

浦松

ついで乃れぬれぬれ松の松もきりぬき

磯松

一方に松のいふ人の松松の松にそ代をねりぬき

遠山松

山道より松のきりぬきぬきぬきぬきぬきぬき

名取松

白く色に濁れと白くおぼろの清くもあけけり
是る人の心も小川乃を流るるにや
さしはらふ月のまは是流をなほ
はらひせしあかづきまよや
松くも霞もやとたふ也
何一思乃山のおくも
改下つとまよとせし
され子つは又
思ふ人のこころも
ことし生れよの若竹

窓竹

まよと入るるもこぼつと竹ある方な窓はあけけり

ねこより竹のまよは植ふる是竹の如く

窓竹

のこめはうまうまは竹の根も陰も

竹葉遊年

まよは竹のまよは竹のまよは竹のまよは

竹のまよ

風をたゆませるまよは竹のまよは

様弓のまよは竹のまよは竹のまよは

まよは竹のまよは竹のまよは竹のまよは

まよは竹のまよは竹のまよは

まよは竹のまよは竹のまよは竹のまよは

竹

高やたにすらひの鶴もしりせをみ年やまへるむん
余代へよりん鶴乃りき此をみし原れむくしりや
明子しき日はいとぬ波うをを鳴りしり初めしあ
あし川乃るせも其何んせんせを、増してうき世に亀

晴天鶴

あれはむしきまれあ書にあらやまへるの村を

鶴宿松

もことしたちをせをめとあし川のやぶる松はこたひり

鶴訓碑

多代ふしきあまはまをしりあの子をひりあし川をり

名不指

任のそれあ人乃ちまのしりあを白や後のをせけかえん

あしちり乃信まらしる松まはらよんしあおまへん

曉更鶴

久よれ夫乃宗たれあしはまはよんよんあつらうも

き村鶴

あしあもあつらもみぬあつらくせんをあしあつら

白鶴の立洲

川のせの波のたまりにあまらしりし川のせの波のたまりにあ

江の鶴の歌

あしあもあつらもみぬあつらくせんをあしあつら

亀

あしあもあつらもみぬあつらくせんをあしあつら

指松

本末の程を多しうた山嶽乃ちあやうきものありかし

神社

天つ神まつるるる志つ仰りて君の代をくはるはれえすん

神祇

石は水もあうの月れ影をうけかまひのれき 神祭ふふ

のみにハ神をうみを祭りけし宮戸のあま天のまれくひ

曉神祇

とあー大ハまおをのこれ神壇あますうとほか川を

社既致

昔ねーのあはとあま祝松也や神世の二葉あん

社既株

はの国れあはのつあれ、まううと神を只中のまを降

寄社雜

石は水も神も仙もあまを影をえんゆ程すめる代も仙え

ある年さる事さるかしこれ大社有

初使ふとと世後ふりありけるあり

あまきん神のみまを日本人数るすすく祈らまはれ

三十番神又すゆる松を庭さるる生

業えく新をおあふせんなりしと瑞松館と

名付さる人のれん

神さるまらおまにあらを移く久しまやみ陰さるん

或人のあまの五葉乃松乃

あまぬまられら祭のいつを何れと書こそあ代の陰ハれ

志すは國入りしりまうし有るあまは國なる

新薨り子未嫁より祝

まこと山神くはるる月しら又あをせ張まの影もるん

瀬戸物屋某々利斐

不藤斐斐ひあうてあ代ふへき瀬戸の岩かハ形はあ

八月十五日斐あうしるん

黒斐をほくハやえ大やえ帰る月乃すまの影もあ

六月の辰三楊柳雲かきりあうしる

みね月の後いたれも志つれとる居又増りて涼しそはあ

兵庫人船井と云西へ大塚氏の男子むさうり

祝祝のしるし

おげやすかたれあの名きりけりあをせばやせ聲乃又君

泊瀬川氏子産せしれ

けりあ二本河ふ杉とよりけりあけも尼ゆるあう

藤井氏母れ七十賀 喜祝

吸花をいつれあをさあみせきあをさあをさあを

七十賀又ねる鳩林よかいつ

かきりあきさあをせの山修えとりこをよひを越る

こけよあうしるしる祝のあをさあを

あをさあをさあをさあをさあをさあをさあを

信州人七十賀 寄叢祝

降しあをさあをさあをさあをさあをさあを

初春祝

あをさあをさあをさあをさあをさあをさあを

夏祝

大日本万国の平和を期す一其思願也一六月の事

秋祝

百風の叶もたぐぬ秋とてささけにる國民の聲也

寄神祝

我國は伊弉の神代絶つて昔人まもるひぬりや
まのり又かきしりへよりまほきまの神をよめ

社政祝

徳をえぬやしるに初る事つら代つて世をたもて

寄日祝

家代と徳をよめい文より人ほよりけよこの邦

寄花祝

かぎりなきをよめとかき入て敬花とあはらめ何思ふん

寄弓祝

あつさ弓作こ合せてちりより世ハ又こつたをたぬりにけま
あつさ弓をよめゆるまのたけには袋をよめひくへりる

松経年

いつちたさう秋後もは宿の松の片枝ハとてさうけれ

寄賀進年

あつさ乃よよ志をよめさきまを寄せよ人ハとてひつ先

贈金十年奉

おにえさう萬年昔人のあつさつれ子代つらあつさん

心静延奉

あつさあつさつらつれつらつらつてつらつ代つたのかりた

寄山祝

吉熊丈七千賀と一室月あり

君のよはるる喜乃ハ市橋黄入事と、嘆事あるん

丹坂氏七十賀 泉屋と号

山乃井又ふれつ年の一度ナとて坂村人乃けり

大山氏八十賀

こりよよとれりちと先越く多年此後又ハ秋長子

備後尾宿宜暢、年賀事とて歌もあつてハ

乃西海をあらと

まみりれおろこにんてく思婦 汝存をけさ君、歌を

杉本氏母と千賀 子日祝

たしちよれげりの喜又おとと急てさけら信と君やるらん

母波菊家とて千賀

君の名とよふ山後乃まきれ花のちりも世はさよこへん

吉永紀元大嘗會紅きけり、法國石と糸

多豊年の守えありりれハ

志り〜めとみれ娘の火あめ桑と〜そ対〜とあつとん

寄道祝

何れ葉とま〜をわく武意れさハ廣く七葉、げり〜あ
世乃人乃ゆ〜あ〜ら又まさせつ 揚をくけり言のたあめ〜ら
天の〜ささあ〜もなき時もありてきたぬと乃たりの道

寄世祝

君の代ハワつ〜けり天のい〜れ安〜れふ代も やち〜志
長栄寺よりおくれ〜る盆蓮〜月十二日祝
咲ゆ〜るをあとハ父〜忌十日ハ母〜忌なりりれハ

あはれな歌

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

丹波矢田なる寛隆河上公のやう

水多しとてあはれすけは山川の流るまもいさうをまげを

皇子のまはりうせり一も新愛ふんしたると

あけきぬかありし返りこた

夏もあはれなうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

書きまはる乃ゆめは歌あり

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

備後高橋氏志母追悼は歌を乞十年はり

昔は業石まきぬれりかめなる人悲し

もてあしけりるると思ひをえ

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

寄花懐旧

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

初冬懐旧

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

風来懐旧

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

徳大寺公通公沛十七回懐旧

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

常楽寺初月忌月前懐旧

あはれな歌のうらみとては道もなほなほのふりしり汁李

仙光寺法三回 時雨驚憂

居きしときを思ふにけりしはなほよこして傳へられぬ

書家上田藏田女五十四回追悼

秋意うつふふしはふき人のまぢほつとも思ふさばふの

甲丹する書性凡孫二人を先とてしそそり

うす病哉を人かこちまうく文おとせらるうり

のびくり

ふとに回しふるきはなれもうぬもの後也計摩

回しはふる知情凡も文有りて書さふうり

うりり居中をときけと難波よあも及たん

うりこく書也

居何難はまそかこめ世をくもほこるはん

草津山田氏追原 寄花無事

けりけりもちり集けりと書ら秋意の便そ

阿ふ日人々もよに上る公ある故去入大如守の家

く先をまひゆつひの行もく書さるる書也

り契りてぬ者れあやしむる風乃まよとかけたるか

書態まう書あがまうりけるるるふひ書り公家

貞子乃実身ゆり信ふとききたは打控るるか能

けりよま書葬るるりもまよぬ大穴始もあつ

まよいつなう心くるし書りし痛と信ひらん書

とまの書あしかりけりあひくハ子おけきの中

おのりし書も一方もやとまあまかハり書

せりり

一節よき一しそハ花を種もくふくぬ君とさるん歌

二月廿七日 河七曲書懐旧

くふよ君の如きとくはし柳のつらき書けけり書

河一時書懐書水

学書けけり花もさるん池の水のさけきもさるん那

河く暮書

くふせん書かこみとさるん書の日数もく種をさけけり

或人れ追懐書懐旧

侍も今ハおちりなりけり書れ書の手書くもあさるん難

其越中守七回夏懐旧

河くせんさくおちりなりけり書れ書の手書くもあさるん難

寄卯花懐旧

何とて花と好とさるんおちりなりけり書れ書の手書くもあさるん難

大道寺出書乃沙年回々寄筆懐旧とらあさるん

河くせんさくおちりなりけり書れ書の手書くもあさるん難

たきせハ日数なりけり書れ書の手書くもあさるん難

あさるん乃と十三回々

遠とてかおちりなりけり書れ書の手書くもあさるん難

元隆一周懐旧

あさるん乃と十三回々

股部氏又つなはり書懐旧

書懐旧

書懐旧

書懐旧

あまのついでに何れかかへたれり
人まよひは志しき文いとて
おのづから係はるるまじき
まよりぬいぬと申すれり
所とありぬ日ぬん三春と
まき枝のやと獨こちばりし
一年よとてけしつるれと
月々にあまのついでに
新松下一周 寄郭の懐旧
先づぬををうれをよこ
思新樹 同書
新松もけしけ國のま
けは其んまをけりたきけり

富子氏又娘くあひく
ののの林人、あまの
にわが

おのづからあまのついでに
おのづからあまのついでに

おのづから

降雪れうる年終せる一節ハ
河の事あまのついでに
かては花の
河の事あまのついでに

中一宮のまはる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
水也様宿

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

まはる水はくもくはるる水もくもくはるる水はくもく馬のまはる
嬉路

井川長尾江尾より夫婦の香合を送る

御上より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

尾張國ある堀田氏婦史其るたつとありて

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

吉原をりて御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

御色紙より書きたる御色紙に人よれと云ふは由りありけり

山登りてはしるしはみあるはまよきり帰る

山科乃あつりきりに田舎の畦道を信じてあつの

実ちりしはしるし

玉るるはさし節をへそはくくつはあつはるはる人

とひひの其後いそせりりしりよははるのあつ

はりしは

はりしは— 城のこゝろの今もたつらうさるさるはるりり

ある人天までもはやうを訪ひりしはたつらう鳥籠

よととつらう引くしはつらうをねねまよ又おし

あつてはるりりりはつらうはつらうはつらうはつらう

つらうにるはつらうはつらうはつらう

つらうせん年と掃る君してつらうはつらうはつらう

ちりつらうはつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

みさきつらうはつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

孝石の階ハつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

はつらうはつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

はつらうはつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

島根もつらうはつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

つらうはつらう

つらうはつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

宮はつらうはつらう

つらうはつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

つらうはつらうはつらうはつらうはつらうはつらう

つらうはつらうはつらう

とてはこれほど色ハかきくも多し傳ふと見えしもの
わづらひけぬ古き節傳へしははたし
那き何れかおんあゝとある人乃昔れは
ひきまかしくたせとひくかへりわらふ
けはる

重井のまゝ乃なりけるが就乃節ひそ中かあるの意ハ
盡山翠紅皺ハ勝然と作りてまは

善峰晩中獨

あつたての川く流せきりたすしとくくし
嵐峽春花

かしくも君の如くあにがわらふ志やあし
梅津柳映

咲とらん 梅つたさもまき色く
音ね啼能

あやうきやうくもれ清水乃 湖のわらわ山
藍山秋月

あつたての川く流せきりたすしとくくし
都城暁雪

も武代やあつたての川く流せきりたすしとくくし
桂水練炭

月入乃やの衣の下とけくねひ川とく
八坂古城

あつたての川く流せきりたすしとくくし
友ねの輝系河とく

池をわたりて水をこぼし 池の影をのぞ

ひより見む何ゆゆハ人もあはれそしけむとまら

我がのいひおぼしきそそ水のゆふにまらるる 影もたうけぬるん

江戸海川永代教寺より吉祥蘭をゆきむき

官教再建乃瑞とん寺王詩あり 香は甘款

字也

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

對仙醉樓よりゆきむきやうりーに海のうき

ふしむり

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

曉は夏よ板つらつらつたふしむり

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

まうき代よか

仙人の色をせられたる 雲をわたりて 雲の香もあはれられたる

夏

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

まうき代よかを箱板の香あらしむよ 何しむもあはれられたる香

的場惠妙より女侍中より國よりあはれられたる

いり音つねよきよき にはりあはれられたる

